

[第883回ゼミ報告] 2024年7月5日号

遅い梅雨入りは、突然の豪雨で始まり、それが短期間に終わったと思ったら、なんと40度に迫る猛暑へ日本列島は突入、そこに熱中症のニュース  
6月25日のゼミは、佐々木隆治『資本論第3巻』の「はじめに」「人と作品」と「第1章 剰余価値の利潤への転化、および剰余価値率の利潤率への転化」を6月12日ゼミに続き竹内さんの報告で行いました。最初に、本書では「形象化」とマルクス独自の「均衡」概念、現象形態の発生、物象化の深化として形象化と説く。剰余価値から利潤へは現象的メカニズムで利潤という形態を受け取る。さらに費用価格は現象形態として現実的基礎である。剰余価値は資本から生じるものとして現象する。労働は雇用契約で強制され、効率的労働として、生産力発展を強化する。剰余価値は販売で発生するという幻想、現象形態とそこから生じる幻想「物神崇拜」が区別される。利潤率の分母は費用価格でなく前貸総資本となる。不変資本の節約は利潤率を高め、労働日の延長、不変資本の節約は資本の固有の力として現象する。不変資本の節約と労働の社会化、共同的労働：直接・間接の協業、最大限の利潤をひきだすのは貨幣資本家たち。第3部で競争をどこまで前提にするか、理論的混乱。機械設備の償却を早めるため、労働時間延長・昼夜交代制・加速度協約へ。流過程からは最も重要な生産要素は原料。流通時間と利潤率  
討論では、現行版と草稿の違いが明確に分かる。佐々木はとても分かり易い文章にしている。第3巻5章「利子生み資本」が重要、エンゲルスによる文章が色々入り、あまりの困難を感じる。3章の「低下の法則」ではエンゲルスは「低下」のみだが、反対の側面がマルクスによって書かれている。この第3部(第3巻)をエンゲルスは「総過程」としたが、マルクスはそこを「形象化」としている。第1部と第2部で資本主義の本質を解明し、第3部で資本が現象として表に出てくる姿を書いている。  
会場参加は小野さん・川口さん・山口さん・高田、オンライン参加は竹内さん・後藤さん・田中(興)さんの合計7名の参加でした。

\* 7月10日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 890 0414 0677 パスコード: 372906

\* 6月26日ゼミから、佐々木隆治『資本論第3巻』が始まりました。

\* 9月7・8日の2日間、研究大会が初めて平和都市・広島で開催されます。

世界は今だに戦争が続き、核兵器の脅威が80年以上続く現在に。

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

7月10日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

斎藤幸平『マルクス解体』第4章 一元論と自然の非同源性 報告:後藤さん

7月24日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

佐々木『資本論第3巻』第2章 1-2節 平均利潤への転化 報告:小野さん

9月11日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

斎藤幸平『マルクス解体』第5章 ユートピア社会主義 報告者未定

その後 9/25, 10/9, 10/23, 11/13, 11/27, 12/11 [アイクルの部屋]

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755

HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso